

まほろん

Shirakawa since 2007



通信

まほろんは

15th Anniversary year

なのダ!



◇特集◇

まほろん 冬まつりの様子

■シリーズまほろんのヒミツ1■

体験学習の裏側に密着！之巻

■シリーズ収蔵資料品紹介 23■

縄文土器のススとコゲについて

■コラム■

縄文土器の地域性

まほろん 冬まつり

の様子

平成 28 年 2 月 14 日（日）のバレンタインデーに行った、まほろんイベントをプレイバック！

文：専門学芸員 大山孝正



ショコラでミロワールの様子

冬のまほろん恒例のイベント「まほろん冬まつり」。今年は 2 月 14 日のバレンタインデーと重なったことから、バレンタインデーにちなんだ体験メニューを盛り込みました。

ショコラでミロワール

その一つが、古代の鏡の形のチョコレートをつくる体験。まほろんには、会津大塚山古墳出土の三角縁神獣鏡の復元品があり、そのミニチュアをつくる体験も行っていきます。今回はそれをチョコレートでつくるメニューにアレンジしました。初めての試みで、担当した職員も試行錯誤の連続。様々な素材で鋳型を試作し、本番に使用する鋳型をつくり上げました。そして、その鋳型に溶かしたチョコレートを流し込み、冷凍庫で冷やして固める実験を繰り返しました。メニュー名も、フランス語風に「ショコラでミロワール」(miroir：ミロワールは鏡の意味) に。当日は大盛況となりました。



この日限定の体験メニュー

そのほか、「まほろん特製万華鏡」や「組みひもミサガ」づくりなど、初めての体験メニューも取り入れ限定で、カップ火おこし」に様変わり。リボンを巻いた舞ざりを使っておこした火を、ハート形の蠟燭に着火させる、普段とは一味違った火おこし体験が、好評を博しました。



愛の火おこし

また、この日限定の企画として 12 月 6 日の「まほろん感謝デー」で復活した「まほレンジャー」が、この日も登場。出土した土偶を救い出す姿に、子どもたちの声援が飛んでいました。「まほレンジャーショー」の後は、コラボ展「まほろん&発掘ガール」の子ども向け解説会も行われました。さらに、午前と午後の 2 回行った「ジャンケン大会」では、勝ち残った方にハート形土偶の顔をかたどったチョコレートをプレゼント。勝ち負けが決まるたびに、どよめきが起きていました。

盛りだくさんの一日

このほかにも、「わくわクニイさん」による編ぐみ細工の実演パフォーマンス、「巡って完成スタンプ版画」、「管玉・勾玉づくり」、「アンケートに答えてアイの種をもらおう」、福島県立図書館による移動図書館と特設コーナー、那須甲子青少年自然の家による「オリジナル缶バッジづくり」と、楽しい体験が盛りだくさんの一日となりました。



まほレンジャーショー

表紙の 1 枚

平成 28 年は、まほろん開館 15 周年の記念イヤーということで、職員による「15」の人文字を撮影しました。最前列は記念イヤーを引っ張って行く平成 28 年度転入職員、その背後には菊池館長を中心に平成 27 年度職員が、時代衣装やイベント用ブルゾン、制服などを着こんで並んでいます。まほろんの楽しい雰囲気を読者の皆さんに伝わってくれるといいですね。

皆さん、こんにちは。モノづくりが大好きな学芸員「わくわくニイさん」です。まほろんのイメージキャラクターとしてデビューしました！

今回は、まほろんで取り組んでいる「古来のモノづくり技術」について紹介するよ。



←相棒のケロリくん

「カゴ」に注目！

かご等の編ぐみ製品は、縄文時代から作られていたことが知られていますが、その材質から遺物として残りにくく、わずかながら、低湿地の遺跡等からの出土品で、当時の姿を知ることができます。土器や石器に比べれば、その数は決して多くはありません

が、遺跡から発見されたかご等には、網代編み・ござ目編み・六ッ目編みなどの沢山の編み方があり、古いものは、7,000年前に遡ることがわかっています。

これらの編み方は、現代まで受け継がれていることから、まほろんでは、現代のかごを参考に、その作り方を復元していこうと取り組んでいます。今年度は、このような7,000年前からの技を生かしたかごづくりを、体験学習に取り入れたいと考えています。

取り組みの成果！

かごづくりでは、この作業の約7割を占める材料の採取と加工が重要になります。残りの3割の作業が、編み方になります。まほろんでは、誰にもわかるように、また、初めての人でも、かごが作れるようにするため、分かりやすく伝える工夫にも取り組んでいます。今年度の実技講座では、「竹かごをつくろう」を12月11日（日）と17（土）・18（日）の全3回で行います。興味ある方は、是非お申込み下さい。

まほろんのヒミツ1

体験学習の裏側に密着！

之巻

まほろん自慢の体験学習をご紹介します！！

文：専門学芸員 國井秀紀（愛称：わくわくニイさん）



六ッ目編みのカゴを編むわくわくニイさん



福島県浜通りにおいては、縄文時代早期末葉から前期初頭にかけて、縄文土器型式の著しい変化が認められます。変化の内容を見ると、東北地方北部から関東地方南部にかけての複数の地域性を反映した土器が混在しています。このことから、この時期は人の往来が際立っていたことが分かります。この現象が生じた理由としては、当時の環境変化が考えられます。環境変化として三つの大きなイベントが挙げられます。一つ目は縄文海進であり、二つ目は最新世の気候最温暖期、三つ目は最新の破局噴火（カルデラ噴火）と言われる鬼界アカホヤ噴火です。縄文海進では現在の海面より4メートルも海水面が上昇し、気候の温暖化にともない暖地性の照葉樹林が分布を北上させました。鬼界アカホヤ噴火では、火砕流やテフラハザードにより九州から東海地方にかけて大きな被害がありました。

コラム

『縄文土器の地域性（浜通りの特性を中心に）』

平成28年3月5日（土）
に行った文化財講座のスペシャルコラム。

文：山内幹夫（当館職員）

そのような最新世最大規模の環境変化により、当時の人々の動きが激しくなり、それが土器型式の変化と地域性に反映していると考えられます。

福島県浜通り地方では、その地理的特性から、縄文時代早期後半は、関東地方や仙台湾周辺の文化の影響を受け、やがては独自の地域文化を形成するようになります。縄文時代早期最終末から前期初頭にかけての段階が縄文海進と気候温暖化のピークとなります。この時期は、人々の広域な交流があったことが各遺跡から出土した土器からうかがえます。南関東系や東北地方北部系の土器が出土し、さらに阿武隈山地系の土器が青森県・石川県や山形県の置賜地方の遺跡から出土しています。このような長距離交流圏の成立を背景に縄文時代前期初頭の土器分布圏が広く形成された可能性が考えられます。今まで関東地方や仙台湾周辺の影響を受けて地域性を生んできた阿武隈山地が、この段階になって土器文化を広範囲に発信するようになりました。このことについては、さらに詳しく研究する必要があります。



縄文土器の ススとコゲ について

縄文土器の年代と食生活
に迫る！

文：専門学芸員 三浦武司

ススとコゲからなぞをとく

縄文土器をよく観察すると、土器の外側や内側に黒い物体が付いていることがあります。実はその黒い物体こそが、縄文土器の謎を解くヒントなのです。黒い物体の正体は、ススとコゲ。ススは、主に土器の外側に付着した炭化物。一方、コゲは、主に土器の内面に付着した炭化物を指します。つまり、土器で調理した食材が沸騰するなどして、こげ付いてしまった状態です。料理をこがしてしまったことは、き

っとみなさんも経験があるはず。コゲがあることから、縄文人は、縄文土器を使って煮炊きをしていたことがわかります。

ススとコゲからわかるもの

ススとコゲを調べると、「どのような食材を土器で調理していたのか?」、「何年前に、この土器が使用されたのか?」などの、縄文時代の暮らしの一端が分かります。

これらを分析した結果、福島県の7,000年以上前の土器では、木の実や山菜類、さらに草食動物を調理していたことがわかりました。

浪江町田子平遺跡出土土器

また、土器の使用された年代を探ることも可能になりました。

まほろんで5月8日(日)まで開催している企画展「縄文土器の年代—その古さを読み解く—」では、ススとコゲを分析した結果を初公開し、11,000年から7,000年前の古い縄文土器を一堂に展示しています。ススとコゲから読み解く縄文土器の世界に、タイムスリップしてみたいはかがでしょう。



小野町西田H遺跡出土土器



まほろん掲示板

子どもが主役の
3日間!!

まほろんまつり

5/3(火) 5/5(木)

(開催時間 10:00~15:00)

企画展「縄文土器の年代—その古さを読み解く—」

開催中!

5月8日

- 5/1 (日) 考古資料基礎研修「縄文時代早期の土器群について」
- 5/3 (火) ~ 5/5 (木) GWまほろんまつり
- 5/15 (日) 家族で土器づくり(初級編) ①
- 5/21 (土) 第1回館長講演会
- 5/28 (土) ふくしま復興展「震災遺産と文化財」開幕(~/7/3)
- 6/5 (日) 文化財講演会「震災遺産と文化財を考える」
- 6/12 (日) 家族で土器づくり(初級編) ②
- 6/18 (土) 文化財保護・活用基礎研修「被災資料の保全・記録実習」
- 6/26 (日) 歴史と植物を学ぶ野外展示解説会 第1回まほろん森の塾

★お気軽にお問い合わせください!

編集後記

今年の7月に、15回目のお誕生日を迎えるまほろん。この節目の年に、本紙も新たにリニューアルしました。まほろんってどんなことをしているところ?文化財って何?などなど、読んで楽しい、ためになる、そんな「まほろん」にしたいと思っています。応援よろしくお願いします!

まほろん 通信 vol. 59

平成28年4月15日発行
(年4回発行)

開館時間 9:30~17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合にはその翌日ですが、GW及び夏休み期間中は開館します)/国民の祝日の翌日(土・日曜日に当たる場合は開館/年末年始(12月28日~1月3日))
入館料 無料(体験学習メニューによっては、体験料が必要な場合があります。)

お問い合わせ



〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86

☎ 0248-21-0700

fax 0248-21-1075

ホームページ

まほろん

検索

